

ジェネラリストの 羅針盤

医学部では教わらなかった28のクエスチョン

医師はすべからく、医学部・医科大学において、定められた医学教育を受けている。しかし、そこで学んだ知識や技能だけでは実際の臨床現場で太刀打ちできないことも多く、卒業後に臨床現場でオンザジョブにて習得するものも多いと思われる。しかし、それらは医療施設が立地する地域によって、またはその時代によって違いがあるかもしれない。また時にはあまりに個別的・独善的なものになりかねない。かといって、それらをまとめて記述した書籍はなかなか見つからない。実際、書きにくいことも多々あるだろう。

私がこれまで直面してきたそれらの疑問に答えてくれる内容をぜひとも読んでみたい、知ってみたい、そうした希望、知的好奇心からこの特集を組ませていただいた。臨床上、頻繁に遭遇する、しかも従来の医学教育で取り上げられていない内容を厳選に厳選を重ねてピックアップした。第1章「ジェネラリストはここまで診よう！」では、いわゆる内科の範疇を超越して、ジェネラリストとして診ざるをえない、また診るべき他科の診療方法を述べてもらっている。その分野の専門医ではなくジェネラリストだからこそ行うべき、ジェネラリストでも行える内容・コツが満載されている。第2章「いろいろあります日常診療」では、日常診療でしばしば遭遇する悩ましい問題に対して、ジェネラリストならばすべき対処法を網羅的に解説している。「なるほど！」と膝を叩きたくくなるような内容ばかりである。そして第3章「知りたい！仕事とキャリアの話」では、さまざまなジェネラリストのキャリアをご解説いただいた。幅のあるジェネラリストへのすべての入口・キャリアパスが記載されている。きっと、あなたの未来が開けて見えるのではないと思う。さらにコラムでは、その大所高所からの視点に、何度読んでも味が染み出る。

各章の執筆者は、その分野を語るとても豪華な顔ぶれと自負している。単なる知識ではなく、経験に基づく心の通った内容が記載されている。そして渾身の力を入れて

ご執筆いただいたのが、よくわかる。お忙しいなか、執筆者の皆様には心から感謝申し上げます。ありがとう。

昨今、総合診療医や総合内科医などジェネラリストを求める声が市民から起こりつつある。それを汲み取って、行政、そして各学会・医療系団体・機関が動き出している。その大きな流れのなかで育成されつつあるジェネラリストたちは、市民のニーズに応えうる、ゆるぎない存在になる必要がある。そのために必要な楔となる内容が本特集に記されていると確信している。ぜひとも何度もかみ砕きつつ今の現状に合致するか反芻し、自分の血や肉にしてほしい。それだけの内容がここに盛り込まれている。

この特集をすべて吸い取ってほしい。そして名実ともに日本の医療を支えるジェネラリストにグレードアップしてほしい。心から期待している。



竹村 洋典

(東京都保健医療公社 多摩北部医療センター 総合診療科)